

局・部を越えた事業

7 局・部を越えた事業

市民の立場に立った整備事業

北九州市では様々な事業が行われていますが、その中でも複数の局、部がかかわることと効率的に推進されている事業も多くあり、一体となった整備を推進しています。

建設局 建築都市局 産業経済局

7-1 旦過地区再整備事業・・・★

旦過市場は、「北九州の台所」として長年市民に親しまれています。一方で、神嶽川の浸水被害や密集した木造建築物など、防災・防火面で課題を抱えています。

本事業は、旦過地区の安全性を高めるとともに、旦過市場の魅力を未来につなげるため、神嶽川の改修とあわせた旦過地区の再整備を行うこととしています。

＜神嶽川（旦過地区）の浸水被害＞

平成21年7月と平成22年7月の豪雨により神嶽川から水があふれ、旦過市場では2年連続で浸水被害が発生しました。

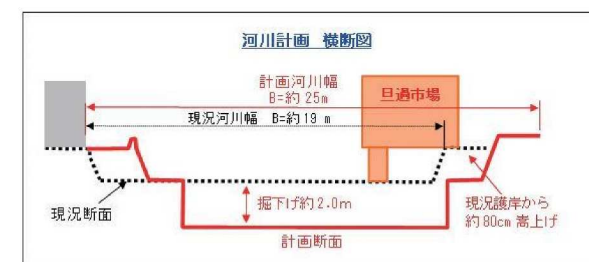
平成21年7月の浸水状況



＜整備の概要＞

(1) 神嶽川（旦過地区）の改修

- 延長：約200m
- 内容：河川拡幅 現況約19m →改修後 約25m
- 護岸嵩上 約0.8m
- 河道掘削 約2.0m



(2) 旦過市場の再整備（旦過地区土地区画整理事業）

神嶽川の改修と一体化した旦過市場の再整備について、市場関係者を中心とした検討組織を設立しながら、検討を進めてきました。

- ◇平成24年度から市場関係者とともに以下の計画を順次策定してきました。
 - ・旦過地区まちづくり構想(平成25年9月)
 - ・旦過地区まちづくり整備計画(平成27年6月)
 - ・旦過地区まちづくり基本計画(平成28年6月)

- ◇市場関係者が計画を実施するための新たな準備組織「旦過地区再整備協議会」を設立し、2つの委員会を立ち上げました。(平成29年7月設立)
 - ① 旦過地区土地建物委員会
 - ② 新市場管理運営委員会

- ◇市が旦過地区再整備に関する公共事業評価に関する対応方針を公表しました。(令和元年9月)

- ◇市と地元4団体との間で旦過地区再整備事業に係るまちづくり協力協定を締結しました。(令和2年10月)

- ◇市が北九州広域都市計画事業旦過地区土地区画整理事業を都市計画決定しました。(令和2年3月)

- ◇国土交通省による事業認可を受けて市が事業計画を決定し、旦過地区土地区画整理事業を開始しました。(令和3年2月)

- ◇市場関係者がまちづくり会社「旦過総合管理運営株式会社」を設立しました。(令和3年2月)

- ◇市が旦過地区土地区画整理審議会を設立しました。(令和3年7月)

- ◇市が事業推進のための仮設店舗(旦過青空市場)を設置しました。(令和4年3月)

(3) 旦過市場の大規模火災への対応

令和4年4月と8月の二度にわたる大規模火災では、広範に及ぶ延焼により事業区域内も甚大な被害を受けました。火災後は、関係局等と連携して、復旧・復興に向けてアーケードの安全確認や道路の早期開放など様々な支援を迅速に行うとともに、早期再建に関する技術的な助言を行いました。再整備事業については、被災者や関係者の意向を丁寧に確認しながら、今後の事業の進め方について検討を進めています。

また、再整備事業のさらなる推進と旦過市場のにぎわい創出を目的とした仮設店舗を設置しました。



整備後の市場イメージ

7-2 北九州市 小倉都心部浸水対策推進プラン

小倉都心部（主に神嶽川流域）では近年、豪雨により浸水被害が発生していることから、建設局、上下水道局及び地域の住民が連携して浸水対策推進プランを策定しました。

このプランを、国土交通省の浸水対策の登録制度である「100mm/h安心プラン」に登録し、早期整備、早期浸水解消を図ります。

国の登録制度の概要

- (1) 近年、短時間の局地的な大雨（いわゆるゲリラ豪雨）等により、浸水被害が多発していることから、局地的な大雨に対しても、住民が安心して暮らせるよう、河川と下水道の整備や住民等が参画したソフト対策により、浸水被害の軽減を図る計画を国が支援するもの。
- (2) 市町村からの申請により、国土交通省水管理・国土保全局長がその計画を登録。



登録証伝達式の状況

市の計画の概要

- (1)計画名：「北九州市 小倉都心部浸水対策推進プラン」
- (2)計画期間：平成27年度～令和6年度(10年間)
- (3)登録日：平成27年2月3日
(佐賀市とともに九州で初の登録)
- (4)対象範囲：小倉都心部(主に神嶽川流域(旦過市場を含む))
- (5)計画概要：対象範囲において、河川と下水道の整備を重点的に推進します。また、水防訓練などソフト対策も併せて実施することにより、浸水被害の軽減を図ります。

取組内容

○河川整備

紫川の掘削や神嶽川における旦過市場のまちづくりと併せた川底の掘削、護岸の整備等により、雨水を安全に流します。

○下水道整備

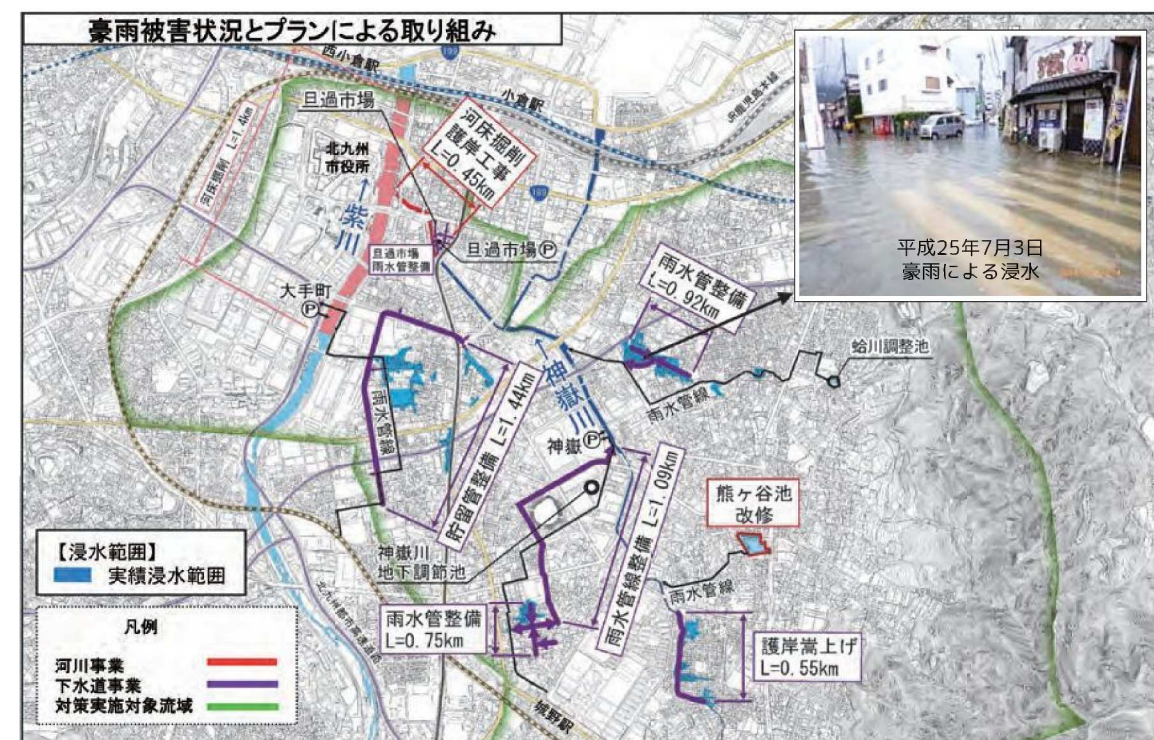
雨水管や雨水貯留管等の整備により、速やかに雨水を排水させます。

○浸水被害軽減対策

- ・旦過市場にてハザードマップを掲示します。
- ・市民と行政による水防訓練や商業施設の大型画面等を用いた啓発活動、防災の出前講演を実施します。
- ・防災の出前講演を行う中で、防災情報のメール自動送付サービスへの登録を周知します。

取組効果

河川と下水道が連携して整備を実施するとともに、地域の住民と連携して、浸水対策に取り組むことにより、対象とする平成25年7月3日豪雨と同規模の降雨に対して、流域内の浸水被害の軽減を図ります。



7-3 花と緑の小倉回廊（花と緑の並木通り）

「花と緑の小倉回廊」とは、JR小倉駅周辺の緑を中心とした、北九州市の都市としての新しい顔づくりです。

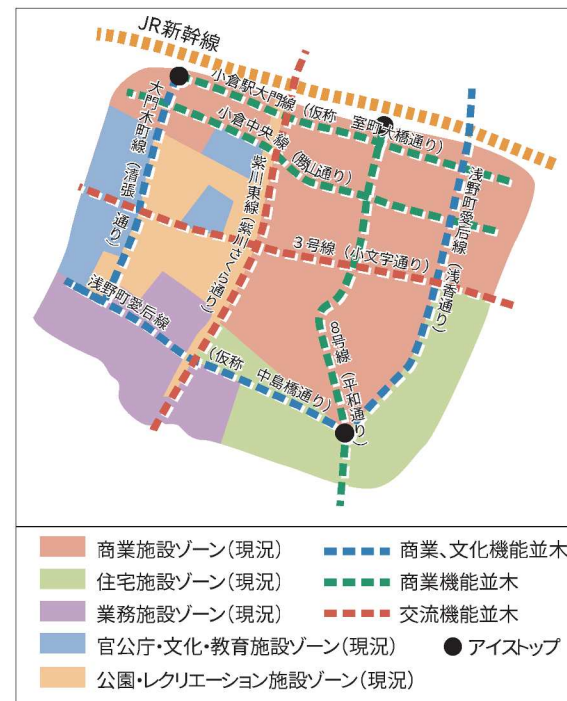
商業や業務、文化などの街の機能が一体となった風格ある並木と、にぎわいのある季節の花々、さらに洗練されたストリートファニチャー（ベンチ・街灯）などが回廊を彩ります。

この小倉回廊の整備によって、都市機能の充実と歩調を合わせ、九州の玄関を代表するにふさわしい緑の都心の実現を目指しています。

（1）整備概要

公共による再開発や道路整備などの事業と、建物の建て替えなどの民間レベルの事業を連携させ、幅が広く安全で歩きやすい歩道を確保し、シンボル性のある並木や道路諸施設の整備を行います。

さらに季節の花々やストリートファニチャーの充実で、華やかでにぎわいのある環境を演出します。



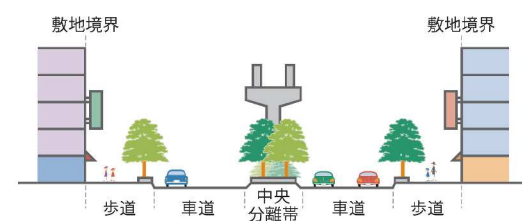
（2）整備の対象範囲と路線

歩行による利用を考慮して1km四方を設定。その圏内8路線に回遊性を持たせた上で並木道を整備します。

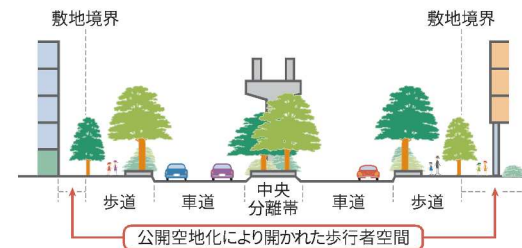
道路部

公園
緑地部

◆平和通り(現況)



◆平和通り(将来計画)



施工前



施工後



商業、文化、交流などの機会を活かし、それぞれの路線のテーマに合わせた魅力ある並木道を道路施設と一体で整備します。交差点部や駅前には、ランドマークとなる緑豊かな広場などの整備を進めます。



季節の花々はもとより、ベンチなどのストリートファニチャーを設け、にぎわいのある通りを演出します。

7-4 にぎわいを創出する取組・・・★

「第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標「北九州市への新しいひとの流れをつくる」に向けて、小倉都心部などのにぎわいを創出するため、公共空間の魅力向上につながる取組を進めています。

（1）夜間景観魅力向上事業

■目的

まちのにぎわいの創出や回遊性の向上を目的に、令和元年度から平和通りや小倉駅新幹線口のライトアップなどに取り組み、小倉駅周辺の夜間景観の形成や明るいまちづくりに繋げています。

※ライトアップは、季節やイベントに合わせて、様々な色で演出しています。

■主な取組

① 平和通り モノレール橋脚、桁のライトアップ 平和通り駅舎下のデザインシートの設置

小倉駅周辺ライトアップ整備箇所(年度)



(2) 国家戦略道路占用事業

～エリアマネジメントの民間開放～

道路は一般市民の安全な通行を本来の目的としており、これまで、オープンカフェなどを設置する場合、道路以外に余地がなく、やむを得ない場合にのみ一時的な占用許可を行っていました。

平成 28 年 1 月に本市が国家戦略特区の指定を受けたことにより、道路法の規制が緩和され、道路空間を活用し、地域団体等によるオープンカフェやマルシェなどの継続的な実施が可能となりました。

① 北九州市国家戦略道路占用事業の目的

国家戦略道路占用事業を実施する北九州市内の地域団体が、道路空間を活用したイベント等を開催し、MICE の魅力向上及び、まちのにぎわい創出を図ることで国内外の人の交流やインバウンドの増加を図ります。

② 実施状況

令和 4 年度は市内 7 箇所道路空間を活用したオープンカフェやマルシェ等を実施しました。7 箇所のどこかで事業を実施した日数は 365 日中 76 日となり、延べ来場者数は約 46 万人となりました。今後も“市民が主役の日常的なおもてなし”を応援していきます。



小倉都心（魚町11号線）



黒崎カムズ通り（黒崎10号線・熊本5号線）



門司港（東港町2号線・5号線、西海岸7号線）



小倉都心（船場町1号線・6号線）



八幡駅前（八幡停車場線）



黒崎駅ペDESTリアンデッキ（黒崎36号線）

(3) その他の取組

① 民間活力の導入等による公園の魅力向上

・勝山公園・あさの汐風公園の指定管理者導入

勝山公園及びあさの汐風公園に「指定管理者制度」を導入し、更なるにぎわい創出を推進します。

② 紫川周辺の魅力向上

・水環境館リニューアル

小倉都心部の更なるにぎわいづくりを図るため、老朽化した設備更新等にあわせ、展示内容のリニューアルを行うとともに、ショップや飲食可能な休憩エリアを整備しました。子ども連れ、周辺商業施設の買物客、市外や海外からの観光客などが、館内でくつろぐことができます。

・紫川テラス

水辺の回遊性向上とにぎわいの場の創出を図るため、連続した水辺の遊歩道や、ベンチや日よけなどの休憩施設、周辺のスポット紹介も兼ねた案内サインなどを整備していきます。

また、鵜外橋周辺の水辺の夜間景観照明を整備し、周辺の公共空間と併せて、魅力的な夜間景観づくりを進めます。

・紫川親水広場リニューアル

紫川マイタウン・マイリバー整備事業の一環として、整備しましたが、20 年以上が経過し施設の老朽化が目立ってきたため、再整備に着手し、令和 3 年 7 月に完成しました。

リニューアルにあたりましては、「水と光の競演」を新たなコンセプトに加え、子どもから大人まで多くの市民が憩い楽しめる施設を目指し整備を行いました。

③ 魅力的なみちづくり

・小倉駅1階東側公共連絡通路リニューアル

通路の全面改修に合わせて、都心のにぎわいと回遊性の向上を図るため、小倉都心部等の魅力情報を発信する「展示スペース」や漫画の世界を楽しむ「フォトスポット」、本市出身の北条司氏の代表作による「壁面装飾」を整備しました。

・小倉駅1階西側公共連絡通路照明灯整備

安全に安心して通行できるように老朽化した照明灯や壁、天井を改修しました。

・休憩スポット整備

市民や来街者が気軽に座って休憩できるよう小倉駅の待合スペースにベンチを設置しました。

・歩行者誘導・案内充実

平成 29 年 3 月にオープンしたスタジアムまでの案内を充実するため、既設の歩行者系サインにスタジアムの案内を追加しました。

④ 紫川キッチンカーマルシェ「Canal Viola(カナル・ヴィオラ)」

～日常的なにぎわいの創出～

民間団体の方々による公共空間を活用したまちのにぎわいづくりとして、紫川河畔で、キッチンカーによる出店事業『Canal Viola(カナル・ヴィオラ)』が実施されています。

場 所：北九州市小倉北区内 1 番付近

内 容：キッチンカーによる飲食提供

休憩用スポット整備
小倉駅新幹線口
(H27実績)

紫川のオープンカフェ

水環境館リニューアル



飲食可能なくつろぎエリア



紫川テラス（紫川ルーフ）

紫川親水広場
リニューアル

小倉駅1階東側公共連絡通路「壁面装飾」

建設局 環境局

7-5 カーボンニュートラルの実現に向けた建設局の取組

環境モデル都市・環境未来都市として実績を積み重ねてきた北九州市は、令和2年10月に「ゼロカーボンシティ」宣言を行い、令和4年4月に国から「脱炭素先行地域」に選定されました。

引き続き、建設局では、道路や公園、河川といった社会資本整備の面から、カーボンニュートラルの実現に向けた取組を進めています。

(1) 小倉都心地区

・環境にやさしい自転車の活用

本市では、自転車の活用を総合的かつ計画的に推進することを目的とした「自転車活用推進計画」を令和3年1月に策定しました。自転車に安全に道路を通行するための自転車通行空間の形成や、利用特性に応じた駐輪施設の整備等を行い、環境にも経済的にもやさしい自転車の活用を推進しています。

また、主要施策の1つであるシェアサイクル事業「ミクチャリ（電動アシスト付き自転車）」は、公共交通の機能補完やまちの回遊性向上、周辺観光の促進を目的に実施しています。令和3年10月に事業を開始し、市内41箇所（R5年5月現在）に設置したステーションで、自転車をいつでもどこでも貸出・返却でできます。

・浅野町線シンボルロード整備事業

小倉駅新幹線口地区の中央部に位置する（都）浅野町線を、癒し・憩いの場、健康増進の場、にぎわいづくりの場など、多目的に利用できる広場を備えたシンボルロードとして整備しました。

全長：330m、幅員 90m

大芝生広場、透水性舗装、LED 照明灯、太陽光発電、風力発電、親水広場、展望デッキなど

・小倉駅新幹線口・小倉城口ペDESTリアンデッキ太陽光発電等の整備

小倉駅新幹線口のペDESTリアンデッキでは、デッキの屋根に太陽光発電設備を設置し、周辺エレベーター、エスカレーター等に電力を供給しています。また、既存の照明をLED 照明に取り替えました。

小倉駅小倉城口のペDESTリアンデッキでも、小倉駅から、アーケードや民間の施設まで連続したシェルターと共に太陽光発電施設を設置し、あわせて照明灯のLED化を図り、緑化も強化します。また、この太陽光発電施設で発電された電力は、周辺のエレベーター、エスカレーター等に供給しています。

・勝山公園「グリーンエコハウス」整備事業

勝山公園プール跡地に公園利用者のための休憩所として「グリーンエコハウス」を整備しました。整備に当たっては、太陽光発電やLED 照明、壁面緑化、複層ガラスなどを用いた省エネルギー型の環境に配慮した建物としています。

休憩所としてだけでなく、ボランティア活動や花と緑の情報発信の拠点、さらに「環境首都」としての市の取組をお知らせし、「低炭素のまちを感じる」施設として、市民の皆さんにご利用いただいています。

(2) 黒崎副都心地区

・黒崎駅前ペDESTリアンデッキ長寿命化修繕(リニューアル)事業

建設から約30年経過しているペDESTリアンデッキの、長期的な活用と駅利用者の安全性、利便性の向上を図るために、構造物の補強や修繕など、長寿命化対策を実施するとともに『環境未来都市』である北九州市の副都心黒崎の顔として相応しい環境に配慮した景観整備（LED照明灯、フラワーポット、タイル・手摺のリニューアルなど）を実施しました。また、歩行者の安全性確保のため、階段及びエスカレーターの整備を実施し、ペDESTリアンデッキにルーフを設置しています。



シェアサイクルステーション



あさの汐風公園



ペDESTリアンデッキ



ミスト設置状況



グリーンエコハウス



黒崎駅前ペDESTリアンデッキ

・中心市街地活性化広場公園整備事業（蛸原公園・黒崎中央公園・岡田公園）

副都心黒崎地区の中心市街地活性化に向けて、蛸原公園、黒崎中央公園の再整備を行ないました。自治会、商店街、各種まちづくり団体など地域の方々とワークショップを開催し、各公園のコンセプトづくりから施設の詳細、整備後の活用まで、数多くの議論・検討を重ねて整備方針をまとめました。

蛸原公園は、「都心居住のオアシス」をテーマに花と緑があふれ、親子が楽しめる公園を目指して、平成23年5月に完成しました。芝生広場、花壇、幼児用遊具、水飲み場などを整備し、既設のレンガの再利用、LED照明灯の採用など環境に配慮しています。

黒崎中央公園は、「多くのイベントが可能な広場」をテーマにイベントステージ、段差のない平らな広場を整備しました。照明灯・フットライトなどにLED照明を採用し、夜の景観を演出します。

岡田公園は、遊具広場やトイレなどの整備にあわせ、LED照明を導入します。

・撥川の整備

撥川河川改修にあわせて整備する河川管理道（遊歩道）に、LED照明を導入しています。

また、河畔沿いに植樹を推進するとともに、散策する方々の休憩スポットとして、河畔広場の整備を行いました。

(3) その他の地区

① ほたる館のエコ改修事業

廃止になった保育所を有効活用して改修し、平成14年に開館したほたる館の自然環境保全施設としての意義をさらにアピールするため、平成22年度にエコ改修事業を行いました。太陽光発電設備を設置し、得られた自然エネルギーを使ってホタルを育てることができます。また、館内照明の一部もLEDに変更しました。低炭素社会の実現に向けた本市の取組を自然環境を守っていくための施設で推進することにより、多くの来館者に「環境モデル都市 北九州市」を「見て」、「感じて」もらうことができるようになっています。

② LED道路照明の本格導入

市民に身近な道路照明のLED化を図ることで、低炭素社会づくりの取組を市内に広げていくとともに、安全・安心な暮らしを支えながら節電を図ります。

〈H23年度からの取組〉

先導プロジェクト：小倉都心・黒崎副都心は、LED化が完了。

既設照明灯：15年間でLED化を完了。

新設照明灯：原則、LED灯を採用。

③ 公共施設の再エネ100%電力化について

北九州市では、2025（令和7）年度までに市内再エネ発電所の電力を利用した全ての公共施設の再エネ100%電力化を推進しています。

既に、勝山公園、到津の森公園、平尾台自然の郷、旧安川邸などでは、再エネ導入済であり、引き続き取組を推進していきます。



蛸原公園



黒崎中央公園



撥川の整備



ほたる館

建設局

産業
経済局

7-6 皿倉山リニューアル計画・・・★

皿倉山は、市街地に近接した豊かな自然や山頂から見下ろす絶景などにより、本市の重要な観光拠点の一つとなっており、眺望や山歩きを楽しむ中高年を中心に、市内外から年間約 40 万人の方が訪れています。

平成 27 年 7 月に官営八幡製鉄所関連施設の世界文化遺産登録によって増加が見込まれる観光客へのアクセス対策や、山頂などの新たな魅力づくりと合わせて、回遊性と情報発信力を高め、市民の健康づくりや癒しの場、市外客の景勝エリアとして魅力向上に繋がるような整備を推進します。

(1) テーマ

皿倉山の絶景と樹々に癒されるシンボルとなる空間づくり

(2) 計画期間

平成 28 年度から令和 6 年度まで

(3) 主な取組

① 皿倉山の絶景を活かした「感動空間」の形成

展望を生かした施設や絶景の遊具整備

② 花や紅葉、古代の樹々を楽しみ、癒される「やすらぎ空間」の形成

モミジやサクラの名所づくりとウォーキングコースの設定

③ 自然の中で新たな発見や冒険心を誘う「ワクワク空間」の形成

アスレチック場の遊具整備

④ 広域からの集客対策の向上を図る「駐車能力」の向上

広域からの集客対策の向上を図る「立体駐車場」の整備

⑤ アクセスや回遊性の向上を図る「案内サイン」の充実

アクセスの向上のため「案内サイン」の充実

